

1. タイトル, 氏名, 所属, 連絡先

「システムxデザイン思考」による公共政策形成のイノベーション創出研究・教育

保井俊之*, 前野隆司, 白坂成功, 石橋金徳, 富田欣和

(慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科)

連絡先*: t.yasui@z2.keio.jp

2. 背景と目的

現代社会の複合し絡み合う社会的課題に対して、現在の行政組織は、解決案の創出、すなわち政策対応をうまくなし得ていないとの根強い不満が地域住民にある。行政組織に対する住民の不満の太宗は、政策形成過程に住民が十分に参加できていない点にある。本研究の目的は、レジレジッドガバナンスの時代を迎え、官民が協働して参加型かつオープンな政策形成に当たるよう、オープン・ガバメントのコンセプトの下、政策づくりのための官民協働・協創モデルを構築することにある。

3. 内容

筆者らは、公共政策の形成のための官民協働・協創モデルを、システムxデザイン思考の方法論を基礎に構築した。同モデルは、ワークショップにより集合知を活用して **systemic** かつ **systematic** に地域の政策形成を行うモデルをさらに発展させたものである。同モデルではまず、地方自治体の若手行政官及び NPO 関係者が参加するワークショップを開催し、地域や地方の組織が抱える課題を共有し、問題を構築し、次にワークショップの中で、オブザベーション、アイディエーション並びにプロトタイピングをループ状に行き来しつつ、イノベティブな政策形成を参加型で図るモデルである。

4. 結論

公共政策の形成のための官民協働・協創モデルは、これまで実施したいずれのワークショップにおいても、官民の参加者による政策形成が有効になされている。現在は、同モデルの主観的満足度、理解度並びに創造性(流暢性、柔軟性、独自性並びに新規性)をデータ収集・分析中である。

5. 参考文献

前野隆司, 保井俊之, 白坂成功, 石橋金徳, 岩田徹, 八木田寛之(2014)『システムxデザイン思考で世界を変える: 慶應SDM「イノベーションのつくり方」』日経 BP

Hinchcliffe, D. (2009) 'Building a vision for Government 2.0', June 3, 2009, *ZD-Net Blog*, <http://www.zdnet.com/blog/hinchcliffe/builing-a-vision-for-governemnt-2-0/467>, last accessed on February 14, 2014.

Kettl, D.F. (2008) *The Next Government of the United States: Why Our Institutions Fail Us and How to Fix Them*, New York: W.W. Norton and Company (邦訳: ドナルド・ケトル著, 稲継裕昭監訳, 浅尾久美子訳(2011)『なぜ政府は動けないのか: アメリカの失敗と次世代政府の構想』勁草書房).

OECD (2003) *Open Government: Fostering Dialogue with Civil Society*, Paris: OECD Publishing.

「システム×デザイン思考」による 公共政策形成のイノベーション創出研究・教育

保井俊之*, 前野隆司, 白坂成功, 石橋金徳, 富田欣和
(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科)

*Corresponding Author: t.yasui@z2.keio.jp

- 問題の所在
 - 複合・絡みあう問題に対応できない行政組織 (新藤宗幸 2002; Kettl 2008)
 - 行政への不満: 政策形成に参加できないがトップ (自治大学校2005; 黒田隆明2009)
 - 東日本大震災後、行政への不満が加速 (野村総研 2011)

Conceptual Background: 行政のガバナンスモデルの変化

工業化時代 (1850-1980)

(キーワード)

Weber-Wilson型の
Public Administration

トップダウン/統率

情報化時代 (1980-2000)

New Public Management
(NPM)

フラット化/効率

ネットワーク化時代 (2000-)

New Public Governance (Osborne 2006)
Leveraged Governance (Kettl 2008)
New Political Governance (Aucoin 2012)

システム/協創

21世紀のネットワーク化時代の政府は、
官民協働・協創のプラットフォームに
(Kettl 2008; Hinchcliffe 2009; O' Reilly 2010; Nishimori et al 2013; Yasui et al. forthcoming)

「システム×デザイン思考」による政策形成の官民協働・協創モデルの構築

「開かれた政府 (Open Government) 」(OECD 2003; UN/DESA 2013)
のためのイノベティブな政策形成の対話ツールの開発の必要性

イノベティブ
な政策形成

システム
思考

デザイン
思考

イノベー
ション



地域・組織が抱える
課題の共有・問題構築

A政策金融機関
イノベーションハブ
WS 2カ所)

B省C地方局
地方事務所等WS
(60カ所超)

D県県庁等
政策WS
(2カ所)

E独立行政法人
組織活性化WS
(1カ所)

基礎となる方法論
(前野隆司ら 2014)

モデルの構築
(Yasui et al. forthcoming)

有効性検証の場
(社会実験中)

有効性検証の方法

- 「システム×デザイン」思考WSと他の方法論のWSの有効性比較
 - 定性検証: 政策形成がモデルにしたがい、円滑にいくかどうか
 - 定量検証: 主観的満足度、理解度、創造性 (流暢性, 柔軟性, 独自性, 新規性)

(写真出所)筆者撮影, 右上: 2014年1月13日東京にて, 右下: 2013年11月11日札幌にて,
左上: 2014年2月3日浜松にて, 左下: 2014年1月22日長野にて)

